

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	これからの時代に必要となる様々な資質や能力の育成を目指し、「SSH」「理数教育推進校」「学力向上進学重点校」としての役割を踏まえながら、カリキュラム・マネジメントに取り組む。	①SSH、学力向上進学重点校としてより魅力ある教育課程の検討を重ねるとともに、生徒の自己実現に向けた履修指導を行い、適切に運用する。 ②すべての教科・科目において、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を実践し、探究的な学びを充実させる。 ③新たな時代に柔軟に対応し持続可能な社会を創出するために必要な、科学的探究力、創造力、協働力を育む。	①SSH、学力向上進学重点校としてより魅力ある教育課程の検討及び生徒の進路実現のための講座を編成し、時間割を作成する。 ②年間を通じた授業研究テーマを設定し、相互授業見学の推進及び公開研究授業の開催により、組織的な授業改善を行う。 ②学習成果発表会を通じて生徒自身が学びの成果を実感し、主体的・対話的な学びを実現する。 ③「理数探究基礎」「理数探究」を核として、小田原市、県西地域の企業等と連携しながら、科学的探究の手法により課題研究を実施する。	①SSH、学力向上進学重点校の目標を達成するための履修指導ができたか。生徒の履修希望科目に沿った講座を編成し、時間割を作成できたか。 ②「生徒による授業評価」において、課題解決に関する評価項目(3と6)の回答のうち、50%以上が「(項目4)かなり当てはまる」であったか。 ②学習成果発表会の生徒、教員の振り返り及び校外の参加者のアンケートにおいて、主体的な学びに関する項目の内容を分析する。 ③課題研究成果発表会の生徒、教員の振り返り及びポスター等の成果物の内容を分析し、次年度の改善につなげる。					
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	①学校行事、部活動、委員会活動を更に充実させ、その活動を通じて、人間形成を図り、全人教育を実践する。 ②生徒一人ひとりの個を尊重した支援体制をさらに充実させる。	①学校行事、部活動、委員会活動における課題解決を目指し、課題解決能力やコミュニケーション能力等を育成する。 ②課題を抱える生徒の支援のため、教育相談全体支援会議をより効果的に運営する。 ③専門的な立場からの支援を充実させるため、SC,SSWとの連携をさらに密にし、外部人材を活用したより組織的な支援体制を構築する。	①学校行事や部活動等で生徒に自ら課題を見つけさせ、話し合い等を通じて解決させることで、全人教育につなげる。 ②教育相談全体支援会議を通じて、年次、保健室、推進担当等の情報共有を深め、ケース会議を効果的に開催する。見えていない課題を抱える生徒の支援につなげるよう、サポートドックをより効果的に運用する。 ③ SC,SSWとの情報共有の時間を引き続き確保し、SSWのより効果的な活用の仕方を整理し、職員全体で共通理解する。	①課題解決を図りながらより充実した学校行事や部活動等を展開することで生徒が達成感を得られたか、部活動加入率やアンケート結果を向上させたか。 ②教育相談全体支援会議やケース会議をより効果的に運営することができたか。サポートドックについて、全体支援会議が主導し、昨年度よりも組織的に取り組むことができたか。 ③SC,SSWとの情報共有の時間を十分に確保することができたか。組織的な支援体制の中でSSWをより効果的に活用することができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒の第一希望の進路を実現できるよう、目的意識の強化と学習意欲のさらなる向上を目指し、各種模擬試験等の分析を活用し、自立的なキャリア形成を支援する。	①生徒が高い目標を掲げることができるように、進路実現に向けた組織的な学習支援や進路選択支援体制を整える。 ②次世代のリーダーに求められる社会的・職業的な自立等をめざしたキャリア形成を支援する。	①生徒の学習への取組状況や進路希望情報を教職員で共有し、進路説明会等で保護者とも共有することで、きめ細やかな進路選択支援を行う。 ①補習・講習及び実力試験等の学習支援を通じて実力を伸ばし、難関大学への進学に向けた学力向上を支援する。 ②卒業生や社会人の講話等の取組を通して、生徒の社会的・職業的な自立、より高次なキャリア形成を支援する。	①生徒の学習への取組状況や進路希望情報を職員で共有し、保護者へも効果的に情報発信して、生徒に高い目標設定を掲げさせることができたか。 ①実力試験等の結果分析を活用して生徒の実力をさらに伸ばし、難関大学への進学実績を伸ばすことができたか。出願検討会を開催することができたか。 ②生徒がキャリア行事に参加することで将来に向けた明確な展望や高い目標を実現する意欲を持つことができたか。					
4	地域等との協働	地域との協働を推進し、地域から信頼される学校づくりを進める。	①生徒一人ひとりの幅広い学力の育成のため地域等の教育力活用を推進する。 ②地域に開かれ、地域と共にある学校を目指し、広報活動を充実させ、教育活動に係る情報発信をより積極的に行う。	①地域や行政(市防災安全課)等と連携して防災訓練・研修会等を実施する。 ①地域貢献活動等を計画し、生徒に積極的に参加させる。 ②学校説明会・学校カミングデー・県西地区合同説明会等を通じ、SSH、進学重点校等、本校の魅力・特色を発信する。 ②学校ホームページ更新を頻繁かつ迅速に行い、日々の教育活動の情報をリアルタイムに発信する。学校案内を改訂する。	①地域の特性を踏まえた防災避難訓練を実施し、生徒・職員の防災意識を高めることができたか。 ①地域貢献活動を年3回実施できたか。 ②学校説明会・学校カミングデーの開催・県西地区合同説明会等への参加者数を増やすことができたか。 ②学校ホームページの更新を頻繁に行えたか。学校案内を効果的に改訂することができたか。					
5	学校管理 学校運営	①地域や外部機関との連携を進め、教職員の専門性の向上を図り、SSH事業をさらに充実させる。 ②教職員一人ひとりの意識を向上させ、業務の組織的対応と事故・不祥事防止を徹底する。	①地域や外部機関と連携し、教職員の専門性を向上させるとともに、SSH事業への参加生徒数を増加させ、科学への興味・関心の向上及び学習への動機づけを高める。 ②不祥事を「自分事」と捉えるよう教職員の意識改革に取り組むとともに、校内マニュアルの活用を徹底させる。「働き方改革」を進め、安心して働きやすい職場環境を作る。	①地域や外部関連機関等と連携し、Odatech、先端科学講座・小田高Sciencelab等の多様なサイエンスプログラムを実践する。 ②マニュアルに基づいた研修会や声掛けを継続して教職員の意識啓発を図るとともに、教職員間の日常的なコミュニケーションを活性化させる。「働き方改革」の観点から、衛生委員会の活用等で具体策を示し、長時間労働を改善する。	①地域や外部機関と連携したサイエンスプログラムに参加した生徒数および振り返りにおいて、前年度よりも高い成果を上げることができたか。探究活動の発表指導や評価が適正に行われたか。 ②職員の不祥事防止意識を向上させ、事故・不祥事ゼロを実現できたか。働き方改革を実行し、具体策を示して「時間外在校時間月45時間超・年間360時間超」0%を達成できたか。					

